

| | |
|-------------|---|
| 1 審議会名 | 第3回上田市男女共同参画推進委員会 |
| 2 日時 | 令和8年2月27日 午後2時から午後3時30分まで |
| 3 会場 | 市民プラザ・ゆう 2階 大会議室 |
| 4 出席者 | 下倉亮一会長、橋詰眞由美副会長、今井裕美委員、柴田隆一委員、田中琳委員、寺澤未樹子委員、西山智彦委員、宮島範雄委員 |
| 5 市側出席者 | 堀内市民まちづくり推進部長、大森人権共生課長、小井戸課長補佐、山本主査、松場主事、丸子市民サービス課降旗係長、真田市民サービス課内海係長 |
| 6 公開・非公開 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開 |
| 7 傍聴者 | 0人 記者 0人 |
| 8 会議概要作成年月日 | 令和8年3月2日 |

協 議 事 項 等

1 開 会 (人権共生課長)

2 あいさつ (市民まちづくり推進部長)

3 諮問

- (1) 令和7年度上田市男女共同参画推進事業者表彰について
- (2) 第5次上田市男女共同参画計画について

4 協議事項

- (1) 令和7年度上田市男女共同参画推進事業者表彰について

事業者表彰に応募のあった7事業所について、事務局から概要を説明。

事業所への聞き取りを行った委員から、各事業者についての所感を発表。

(委員) 株式会社エナキス：家庭生活と仕事の両立支援について、組織全体に浸透していると感じた。

株式会社ミヤザワ：管理職による細やかな気配りが行き届いていると見受けられた。

(委員) 増田マテリアル株式会社：組織の中のコミュニケーションを重視し、従業員の声を聞きながら、家庭生活と仕事の両立支援が実施できている。

株式会社堀内電機製作所：風通しがよく、コミュニケーションがとれている様子だった。

(委員) 増田マテリアル株式会社：従業員が会社に配慮されているという安心感があるように見受けられた。

株式会社堀内電機製作所：総務部署と社長の意思疎通がよく図られていて、スピーディだと感じた。

(委員) 株式会社TOTOKU：女性管理職比率を高めるためのアファーマティブアクションを進めている。イントラネットの相談体制の構築への意欲も感じた。

上田プラスチック株式会社：従業員への声かけによりノー残業デーが浸透しているなど、管理職から部下へ気を配っていると見受けられた。インドネシアからの労働者受け入れを実施。製造、検品等、人事配置について適材適所が検討されていた。

西脇自治会：普段の地域のつながりの延長に防災があるということで、防災組織の重要な役割に地域をよく知る人を配置。

(委員) 増田マテリアル株式会社：子どもやペットと一緒に通勤できるとは、具体的にどのようにするのか。

→ (事務局) 高齢の家族が発熱し、従業員と一緒に連れてきて出勤した例としては、従業員福利厚生用休養室で、発熱した家族を寝かせ、総務担当職員が見守りをしていたとのことで事業所から様子を聞き取っている。

(会長) ただ何か実施すれば表彰、ではなく、従業員の声を十分に聴き、コミュニケーションをとり、働きやすい職場づくりをするという姿勢があって初めて表彰されるべき。

10年前とは、社会の雰囲気が変わってきたことを感じる。

応募のあった7事業所について表彰を行うこととしてよいか。

→異議なし、表彰を行うことが適当である旨答申を行うことが委員会として了承された。

(2) 令和8年度の上田市男女共同参画推進委員会の日程（案）について

資料に沿い、事務局から概要を説明。

令和8年度は第5次上田市男女共同参画計画の策定年となるため、計画案の検討等のため5、7、8、11、2月に委員会を開催することとしたい。

→了承

(3) 男女共同参画社会に関する市民意識調査について

資料に沿い、事務局から概要を説明。

(委員) 問7：進路選択、両親の影響が大きい、という調査結果は、納得できる。本来は本人の意思が尊重されるべきだが。

(委員) 両親のジェンダー観が進路選択に大きく影響するという事。

(委員) 親は子の幸せを願うのは当然だが、親がその考えを子に押し付けるべきではない。

(委員) 問13：暴力は目に見えるものもあるが、精神的暴力、経済的暴力は気付きにくいいため、啓発が必要。

(委員) 人は、安全性を感じられて初めて能力を発揮する。組織の中で、役員や管理職等の上に立つ人が「組織として風通しが良いか」を常に意識して気を配っていくことが必要。

(委員) 市民意識調査の自由記載欄中「アンケートに抵抗があり、途中でやめてしまった」とのコメントがあったが、次回意識調査では検討が必要。

(委員) 出産や生理についてなど、結婚して初めて男性が女性の抱える課題を理解するという事がある。幼少期から男女とも教育していく必要がある。

(委員) AVがどこでも買える等日本全体の社会環境が、性暴力の誘発原因にもなっているのでは。

(委員) 教育現場では性教育についてよく勉強している養護教諭もいるが、教員全体が「性教育について」「人間について」の学びが深まらない、浅いままとどまっていると感じた。教員の時間が足りないため。

(委員) 高校では性教育の教科はないが、生徒指導として生徒の性交渉や妊娠の問題はあった。児童生徒が、人間の尊厳をしっかり学ぶ必要がある。きちんとした形で体系的にしっかりと教えることが必要。現代社会には性情報が氾濫しているため。

(会長) 社会的な性差（ジェンダー）の課題が現在あるということに立ち返って、次期計画を策定する必要がある。上田市の計画なので、ローカライズして策定したい。